

(7) ク リ

主要病害虫別防除方法

農薬による防除については、栽培ステージ、病害虫の発生状況等に応じて、散布、灌注、土壌消毒などを行う。

なお、農薬による防除の際は、農薬登録内容や使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
胴枯病 (<i>Cryphonectria</i>)	①無病の苗木を選んで植える。 ②幹をわらで巻いて凍害を防ぐ。 ③病枝を切り取って処分する。 ④過密植、土壌の過乾・排水不良、施肥不足を避けて、樹勢を健全に保つ。 【参考事項】 伝染源は枝幹に形成される柄孢子及び子のう孢子である。病原菌は、剪定切り口、枯枝、凍害などで枯れた芽、日焼け部分及び害虫食害痕から侵入する。
実炭疽病 (<i>Colletotrichum</i>)	①整枝、間伐を励行し、通風、採光を良好にして枯枝をなくす。 ②適正な施肥、土壌管理により樹勢の低下を防ぐ。 ③クリタマバチの発生を極力抑え、枯死した虫えいを除去する。 ④発生の少ない品種を選ぶ。 【参考事項】 枝梢の病患部並びに外観健全な枝、芽に病原菌が潜在して越冬する。翌春これらの衰弱・枯死した組織上に分生子が形成されて、伝染する。
クリシギゾウムシ	①被害果実を園内に放置せず、集めて適切に処分する。 ②冬期にロータリーによる中耕を行う。 【参考事項】 幼虫で越冬(土中)する。翌年に羽化する個体もあれば、2年以上土中で休眠してから羽化する個体もある。成虫発生最盛期は9月中下旬である。
カミキリムシ類	①成虫を捕殺する。 ②食害部を見つけ針金などで刺殺する。 【参考事項】 各ステージで越冬する。1世代は3～4年。
キクイムシ類	①寒害や日焼けを起こさぬようにし、樹勢を旺盛にする。 【参考事項】 樹幹の坑道内に成虫で越冬する。年2回発生する。衰弱した木に食入しやすい。
モモノゴマダラノメイガ	①バンド誘殺をする。 ②被害毬果を確実に処分する。 ③粗植にし高い枝を切り戻す。 【参考事項】 老齢幼虫で粗皮下などの隙間に繭を作って越冬する。年3回発生する。
クリミガ	①被害毬果を回収し、確実に処分する。 ②冬期に表土を耕起する。 【参考事項】 落葉下又は土中の浅いところの繭内に幼虫で越冬する。年1回発生する。発生は8月下旬～9月中旬である。
コウモリガ	①孵化幼虫はまず雑草の茎中で発育するため、幼虫孵化時期(4～5月頃)に雑草を刈って園内を清潔にする。 【参考事項】 1年目は卵、2年目は幼虫で越冬する。通常、1世代に2年を要する。草木から樹木に転食する。
クリタマバチ	①寄生が少ない晩生種(銀寄、石鎚)を植える。 ②弱小枝に寄生が多くなるので、虫こぶのある寄生枝をせん除し、樹勢の回復に努める。 【参考事項】 芽の組織内に若齢幼虫で越冬する。年1回発生する。